

本プログラム実施の背景

- 2023年9月にTNFD最終提言v1.0が公表され、金融機関の開示対応への関心が高まっている。自然関連リスク・機会の分析においては、自然資本への依存・影響や、地域性を踏まえた影響評価等独自の視点を織り込む必要があり、課題を抱えている金融機関が多い状況である。
- 将来的な分析の高度化やエンゲージメント戦略の検討に際しても具体的開示事例は限られており、今後金融機関が分析・開示を進めていくための基盤整備や事例創出を行うことが求められている。
- 本プログラムは、気候変動対策と自然課題の対策の複合的な関係性を整理し、TNFD等開示に向けた取組支援によりモデルケースを創出することを目指して実施した。

<気候変動の分析と生物多様性・自然資本の分析の違い>

	気候変動	生物多様性・自然資本
環境・社会・経済に損失を与える主な要因	GHG排出	生態系サービスの損失
環境の改善・回復に関する対応方法	GHG排出の抑制	生態系サービスの保護 (自然劣化の抑制/生物多様性の保全)
対応を促すために設定する指標	投資先のGHG排出量	投融資先の自然との接点と 事業内容により異なる
金融機関としてのエンゲージメント	気候変動に関するポートフォリオの影響を理解するために、GHG排出量を基にして優先セクターを特定し、議論ができる	ポートフォリオや優先セクターにとって重要な自然との依存・インパクトの関係を特定して議論する必要がある

気候変動と比較して多様な要因があり、指標設定やエンゲージメント手法が複雑である

本プログラムの実施事項とアウトプット

- 本プログラムは、金融機関の融資ポートフォリオにおける自然関連リスク・機会の把握・分析を通じて、具体的な取組の検討を行うモデル事例を創出するため、以下5つの内容を実施した。

1	<p>ポートフォリオにおける自然との関わりの分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 分析ツールENCOREを活用し、融資ポートフォリオにおける自然との依存・インパクト関係を整理し、ヒートマップで可視化 ● 自然との依存・インパクト関係が強い優先セクターの特定 <ul style="list-style-type: none"> ・ TNFD提言（戦略D） ・ LEAPアプローチ（L1・2・3）
2	<p>優先セクターにおける自然との関わりの分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 優先セクターにおけるバリューチェーンを整理し、当該バリューチェーンにおける自然との依存・インパクトの関係をヒートマップで可視化 ● 優先セクターのバリューチェーン上で重要な自然資本を確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ TNFD提言（戦略A/D） ・ LEAPアプローチ（E1・2・4）
3	<p>融資先拠点における自然との関わりの分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 金融機関の本支店（自然との深い関わりが想定される本支店）や優先セクターに関連する企業をリストアップ。金融機関の本支店の拠点やリストアップされた企業拠点等と要注意地域との接点を特定・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ TNFD提言（戦略D） ・ LEAPアプローチ（L4）
4	<p>優先セクターにおける自然関連リスク・機会例の整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 優先セクターにおける自然関連リスク・機会を洗い出し、重要度の高いリスク・機会を特定 <ul style="list-style-type: none"> ・ TNFD提言（戦略A/D） ・ LEAPアプローチ（A1）
5	<p>金融機関におけるリスク・機会の整理及び開示材料の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施事項4を踏まえ、金融機関自身におけるリスク・機会を整理 ● 金融機関自身における自然関連リスク・機会及びCN・CE・NP等の統合・シナジーを捉えた機会創出・エンゲージメントに関する事務局からの事例共有をベースにしたエンゲージメント等、リスク・機会に対応したアクションプランの検討 ● TNFD提言に基づく開示の開示材料を整理

R6年度事業
R7年度事業

※CN：カーボンニュートラル、CE：サーキュラーエコノミー、NP：ネイチャーポジティブ

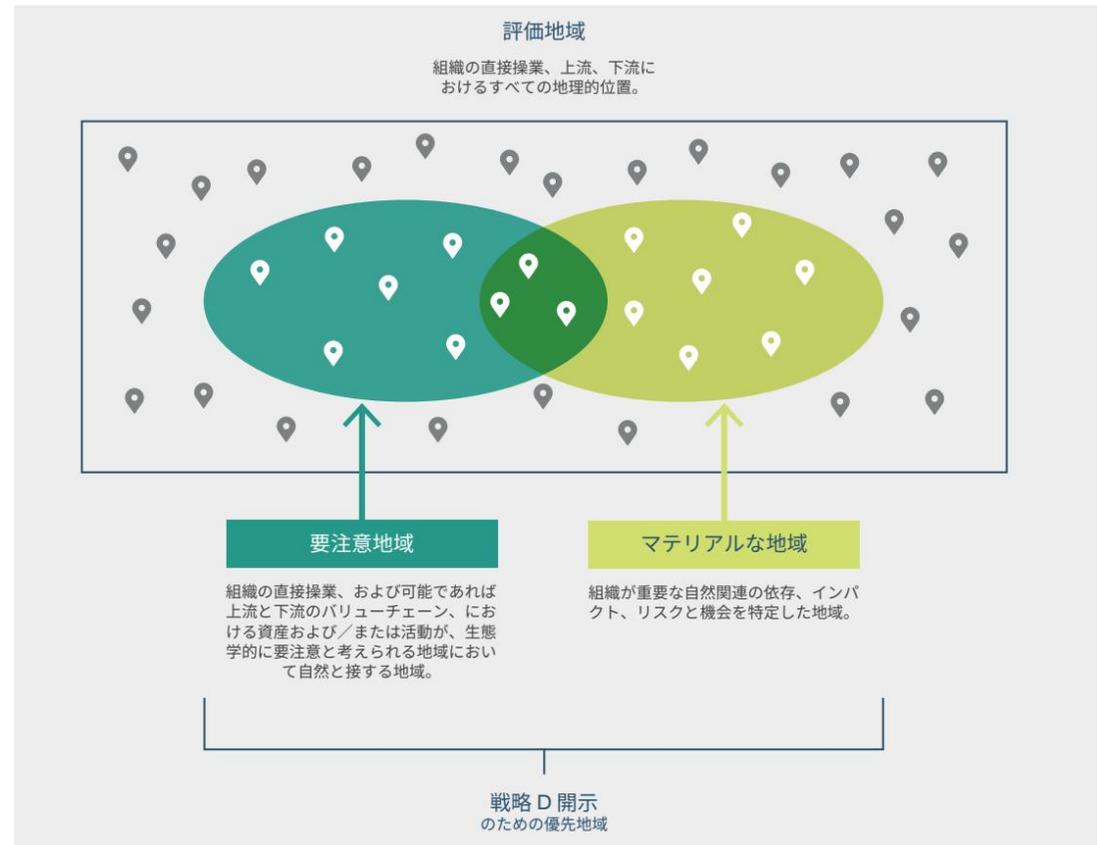
(補足) 要注意地域とは

- 融資先拠点における自然との関わり分析では、戦略Dにて整理されている要注意地域と金融機関の本支店の拠点やリストアップされた企業拠点等との接点を確認した。
- 要注意地域とは、地理的に自然が重要な地域を示しており、直接操業、および、可能であれば上流と下流のバリューチェーンの資産および/または活動が、以下（①～⑤）において自然と接する場所である、と定義されている。
- TNFD 提言上では、上記①～⑤について、1つの観点のみ開示することも、複数の観点を開示することも許容している。

TNFD提言における要注意地域

- ① 生物多様性にとって重要な地域
および/または
- ② 生態系の十全性が高い地域
および/または
- ③ 生態系の十全性が急速に低下している地域
および/または
- ④ 物理的水リスクが高い地域
および/または
- ⑤ 生態系サービスの提供にとって重要な地域

出所) TNFD,自然関連財務情報開示 タスクフォースの提言、
https://tnfd.global/wp-content/uploads/2024/02/自然関連財務情報開示-タスクフォースの提言_2023.pdf (閲覧日: 2026年2月27日)



本プログラムの対象範囲

- TNFD提言では、依存・インパクトの大きい事業活動を特定するために、LEAPアプローチに則って、依存とインパクトを確認し、その上で、リスク・機会を特定することを推奨している。本プログラムでは、緑色部分の分析を行った。

スコープの設定

		Locate (発見する)	Evaluate (診断する)	Assess (評価する)	Prepare (準備する)
LEAP アプ ロー チ	L1 ビジネスモデルと バリューチェーンの範囲	E1 環境資産、生態系サービスと インパクト要因の特定	A1 リスクと機会の特定	P1 戦略と資源配分計画	
	L2 依存とインパクトの スクリーニング	E2 依存とインパクトの特定	A2 既存のリスク緩和および リスクと機会の管理の調整	P2 ターゲット設定と パフォーマンス管理	
	L3 自然との接点	E3 依存とインパクトの測定	A3 リスクと機会の測定と 優先順位付け	P3 報告	
	L4 要注意地域との接点	E4 インパクトのマテリアリティの評 価	A4 リスクと機会の マテリアリティの評価	P4 表示	
TNFD 提言 対応する	<ul style="list-style-type: none"> 戦略D 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略A/D リスクとインパクトの管理 A(iおよびii)/B 測定指標とターゲットB 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略A/C/D リスクとインパクトの管理 A(iおよびii)/B/C 測定指標とターゲットA/B 	<ul style="list-style-type: none"> ガバナンスA/B/C 戦略B/C 測定指標とターゲットC 	

支援先機関の本日の発表内容

- 取組成果、本プログラムに参加しての所感と今後の課題を中心に、支援先機関3行に発表頂く。

項目	具体的な内容
1. 基本情報	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関の基本情報 経営計画における自然資本の位置づけ、自然資本に関する取組や方針
2. 本プログラムへの参加理由・ゴール等	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムへの参加理由 TNFDに関する取組の現況 本プログラムで目指すゴール
3. 取組成果	(1) ポートフォリオにおける自然との関わりの分析 <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオにおける自然資本への依存・インパクト 優先セクターの決定
	(2) 優先セクターにおける自然との関わりの分析 <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンにおける依存・インパクトの確認 優先セクターのバリューチェーンの整理
	(3) 融資先拠点における自然との関わりの分析 <ul style="list-style-type: none"> 要注意地域の観点と分析ツール 融資先拠点と要注意地域との隣接
	(4) 優先セクターにおける自然関連リスク・機会例の整理
	(5) 金融機関における自然関連リスク・機会例の整理
4. 本プログラムに参加しての所感と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 知見・気づき 課題 今後のスケジュール 分析結果の活用